

## 2011「原爆・平和の火」を灯す会サミット・交流会報告書

2011年7月17日（日）午後1時30分から台東区民会館（東京・浅草）で開催され、参加者は50余名でした。

サミット・交流会は、「原爆の火を守り続けた男」の上映で始まりました。このDVDは、「ヒロシマの火」を星野村に持ち帰り、苦難と葛藤を乗り越え、灯し続けた山本達雄さんを語ります。

山口義夫実行委員長が開会あいさつのなかで提案し、参加者は東日本大震災の犠牲者と原爆・核犠牲者そして全ての戦争犠牲者に黙祷を捧げました。そして、福島原発事故によって人類が放射能の大きな被害を引き起こす核のエネルギーを、くらしと平和のために安全に管理し役立てることができるかどうかという歴史的課題に直面している。この課題を「原爆・平和の火」を灯して語り継ぐべき教訓に加えることを強調しました。

山口義夫実行委員長を議長に選出し、プログラムが進行しました。

実行委員会事務局長・川杉元延の基調報告に次いで、八女市星野村から参加された、達雄さんの次男・山本拓道さんは、「父・山本達雄のこと」と題して、特別発言をされました。

特別発言は小野寺利孝さん（上野の森に「広島・長崎の火」を永遠に灯す会理事長）、伊谷周一さん（副実行委員長、鳥取原水協理事長）、柳沢明朗さん（山本達雄さんと親しかった元労働旬報社社長）と続き、次いで灯す会代表の発言がありました。

昼間忠雄さん（さいたま・常泉寺に「広島・長崎の火」を永遠に灯す会）、西岡久男さん（愛知県平和委員会）、小川元一さん（十日町原水協、越後妻有交流館「キナーレ」）、高橋勇雄さん（豊橋市、桜丘高校教師）、奥平祐介さん（桜丘高校生徒）、安間慎さん（豊橋に「原爆の火」を灯し続ける会）、宮下与兵衛さん（非核平和都市宣言をさらにすすめる伊那市民の会）、向井高治さん（茅野市平和祈念式実行委員会）、伊谷周一さん（鳥取・法林寺）、木村康子さん（上野の森に「広島・長崎の火」を永遠に灯す会）、高井統嗣さん（下町人間庶民文化館）らは、それぞれの灯された経緯、苦労話、「火」を起点にした諸行事の取り組み、展望について熱っぽく発言されました。その他に文書発言が5通寄せられました。また、会場からの発言、質問もありました。

（開会あいさつ、基調報告、特別発言、代表発言の内容については、当日の資料集「2011『原爆・平和の火』を灯す会サミット・交流会」に掲載されています）。

日本人は、広島・長崎の原爆被害、ビキニ環礁での漁船の死の灰被害を体験しました。そして東日本大震災時の福島原発苛酷事故被害と核の脅威に怯えています。サミット・交流会は、核兵器を廃絶し、あらゆる核被害をなくし、平和な世の中をめざすため、「火」を

灯しつづける大切さを共有しました。以下に、当日の発言、質疑応答の要点をまとめます。

- 自ら被爆し、「広島に残り火」を秘かに23年間自宅で灯し続け、そして星野村に「火」を託した山本達雄さんの真の人間像に迫る発言が相次ぎました。その「火」から分火された火は、国内32か所、外国1か所で灯され続けています。
- 「原爆・平和の火」は国内45か所で灯されていますが、灯されている場所は公共施設、公園、お寺、神社、学園、個人宅とさまざまです。それらの多くは、「灯す会」等の地域の人たちの市民団体に支えられています。地方自治体が管理している「火」も多く、さらに個人の熱意で灯されている実態も報告されました。
- 「火」のモニュメント建立にあたって、灯す団体相互の情報交換や交流がなされたこと、「火」が消えた時、再点火の採火についての協力がなされたことが報告されました。
- それぞれの「灯す会」が「火」を灯し続ける経費は、自治体からの補助を受けているところもありますが、多くは市民の浄財で賄っている実情が報告されました。
- 市民、学生、生徒に呼びかけ、「火」を語り、「火」を起点に、「非核・平和」の諸行事が企画され、草の根から取り組まれている活動が報告され、交流されました。追悼集会、祈念式、非核・平和を語る会、平和行進、ニュースの発行、学習会等・・・。
- 各地の「火」が平和教育に役立っています。特に豊橋市の桜丘高校生徒の奥平祐介さんの発言は印象的でした。校内の「平和委員会の活動を進めるなかで、やって良かった。誰かがやるのではなく、僕らの世代から伝えることが大事。」

以下は、上野の森に勉強に来た中学2年生の感想文です。「先日は上野動物園の慰霊碑の前や東照宮境内の取材にご協力いただきありがとうございます。戦争中の動物たちがいろいろな影響を受けていたことを学ぶことができました。そのなかでも、東照宮で見た66年間灯しつづけられてきた火がととも心に残りました。広島・長崎に落とされた原子爆弾からとった火で、2度とこのようなことが起きてしまう戦争をしてはいけないと思いました。」

- 「火」を灯す運動を支える人たちの高齢化の問題が出されました。活動を引き継ぐ後継者問題は共通した悩みであることが分かりました。
- 会は、「非核・平和」を願い、「原爆・平和の火」を灯し続けて、多くの人々に訴え、若い世代にこの運動を引き継ぎ、交流・連携を図るため、実行委員会の存続と連絡センターを下町人間庶民文化館に置くことを確認しました。

2011年8月10日

2011「原爆・平和の火」を灯す会サミット・交流会実行委員会

事務局長 川杉 元延